

原文

清徹秀麗、蒼茫幽遠、宛乎如_二錦綺之張_一、所_二以命_一是樓_一也、而倏忽之頃、青者黃、黃者落、而聚者散、而逝者晝夜弗_レ舍也、則登_二此樓_一者、觀_二變乎前_一、感生_二乎内_一、亦足_二以見_一世間富貴功名榮耀之不_レ可_二常恃_一、而種々幻妄之惑可_二以辨_一矣、惑辨而德崇、是孔門相誨之旨、而所謂立誠之學、其或在_レ斯乎、此樓之所_二以爲_一不_レ可_二廢也

頭注

丁未、弘化四年、先生三十五歳、盖先生、自_二天保十四年六月_一、至_二弘化四年五月_一、寓_二於八鹿_一、

読み

清徹秀麗、蒼茫幽遠、宛乎として錦綺の張りの如し、以つて是の樓を命ずる所なり、而して倏忽の頃、青は黄に、黄は落ち、而して聚まりて散る、

而して逝は晝夜舍まらず也、則ち此の樓に登るは、變るを前に觀て、感じるること内に生じ、亦以つて世間の富貴功名榮耀の常に恃むべからざるを見るに足る。

而して種々幻妄の惑い以つて辨ずるべきかな、惑い辨じて徳崇し、是れ孔門相誨の旨、而るに謂う所の立誠の學は、其れ或いは斯に在るか、此の樓の以つて廢すべからずと為す所なり

頭注

丁未、弘化四年、先生三十五歳、盖し先生、天保十四年六月より、弘化四年五月まで、八鹿に寓す

訳

水は透き通り、みどりは遠くまでつづく。さながら美しい絹織物のようだ。そういうことから、この樓は名付けられたのだ。わずかな間に、青色は黄になり、黄は落ちていく。そして、散っていく。

無くなっていくものは、もう戻らない。この樓に登ると、眼前に代わっていくものをみて、感慨が内に生ずるだろう。また、それを以て、世間の富貴功名榮譽が常にあるものでないことを見るのに十分だ。

そして、いろいろな迷をわきまえてはならない。わきまえて、徳は高くなる。これが孔子の教えていることだ。いわゆる、立誠の学問はあるいはこういうところにあるのだろう。

この櫓をなくしていけないのはこういうところにあるのだ。

語句

清徹〓セイテツ①水がきよく透き通っている。

秀麗〓きわだつてうるわしいこと

蒼茫〓ソウボウ 空・海・平原などがあおおとして広がっているさま

幽遠〓奥深く、遠いこと。奥深くはるかなこと

宛〓エン ま―がる。かが―む。あたかも。

乎〓「や」と読み、「よ」と訳す。呼びかけに用いる

「ニ」「ヲ」「ヨリ」と読む。起点・対象・比較・受身の意を示す

錦綺〓キンキ にしきとあやぎぬ。華麗な衣服。あやにしき。美しい絹織物

倏忽〓シュツコツ たちまち にわか

参「倏忽」シュクコツ 時が非常にはやく過ぎるさま。また、時間が非常に短いさま

頃〓ケイ しばらく 命〓名付ける

聚〓シュウ 集まる 充滿する 一杯になる

弗〓「フ（せ） ず」と読み、「しらない」と訳す。否定の意を示す。

動詞・形容詞―もと―る。気に入らないとして退ける。

舍〓やどる やどす

恃〓「動詞」たの―む。何かをあてにする。

誨〓カイ 教え

辨〓ややこしい仕事にはじめをつけて処理する 見分ける